令和７年第１回東北町議会定例会会議録

令和７年３月１２日（水曜日）午前１０時００分開議

○議事日程（第２号）

日程第１　一般質問

本日の会議に付した事件

日程第１　一般質問

◎一般質問

○議長（岡山粕男君）　日程第１、一般質問を行います。

一般質問の通告は３名であります。

通告順に発言を許します。

３番、大崎昭子議員は、一問一答方式による一般質問です。大崎昭子議員の発言を許します。

〔３番　大崎昭子君登壇〕

○３番（大崎昭子君）　３番、大崎昭子です。まずは、ご多用中にもかかわらず、お時間を割き、議会傍聴に来てくださいました方々、本当にありがとうございます。そして、東北町テレビを御覧の皆様、ぜひとも次回はここ役場本庁舎３階へお気軽に議会傍聴にいらしてみてはいかがでしょうか。

質問に入る前に、岩手県大船渡市の森林火災で被害に遭われた方々に心からお悔やみとお見舞いを申し上げ、一刻も早い復興をお祈りいたします。森林の多い我が町でも、乾燥するこの時期、火の取扱いにはくれぐれも気をつけましょう。

それでは、議長のお許しをいただき、一問一答にて質問させていただきます。我が町は、今年合併20周年を迎えます。合併当初２万人あった人口も、現在では１万6,000人を割り込み、人口減少に歯止めがかからない状況です。７校あった小学校も、今では上北小学校、東北小学校、甲地小学校の３校となりました。その中から、甲地小学校の今後について３点質問いたします。

１点目、町内で一番生徒の少ない甲地小学校では、令和７年度から複式学級がスタートすると伺っております。複式指導するに当たって、どのような準備をしているのかお聞かせください。

２点目として、甲地小学校は県内３例目となる小規模特認校を目指すと伺っております。その小規模特認校とは何かお聞かせください。

３点目として、小規模特認校を目指すには、学校関係者や保護者のほかに、地域の理解や協力が求められると考えますが、何か対策はお考えでしょうか。

以上３点、ご答弁のほどよろしくお願いいたします。

○議長（岡山粕男君）　教育長。

〔教育長　長尾誠治君登壇〕

○教育長（長尾誠治君）　それでは、３番、大崎議員のご質問にお答えいたします。

質問要旨１の令和７年度から複式学級がスタートすると伺っておりますが、複式指導するに当たってどのような準備をしているかお聞かせくださいについてでありますが、令和７年度、甲地小学校では２年生と３年生が同じ教室で学ぶ２、３年の複式学級がスタートします。それに向け、教育委員会としては、現在教員資格をお持ちの方を支援員として採用し、担任の先生のサポートをしながら、学力低下を招かないよう児童の戸惑いに適切に対応していける体制をつくっているところです。このことは、保護者の複式指導に対する不安感払拭にもつながることと思っており、少しずつ準備を進めているところです。

質問要旨２の県内３例目となる小規模特認校を目指すと伺っておりますが、小規模特認校制度とは何かお聞かせくださいについてでありますが、小規模特認校制度は、学校選択制の一つである特認校制を小規模で実施するもので、特定の学校を特認校として指定し、少人数での教育のよさを生かしたきめ細かな指導や特色ある教育を行うものです。

このような環境での教育を保護者や児童生徒が希望する場合、従来の通学区は残したままで、学校選択制の一つとして町内のどこからでも就学を認めます。東北町に当てはめますと、特認校となる甲地小学校の通学区の児童は、これまでどおり甲地小学校へ就学し、そのほか希望すれば特別に申請書類を提出することなく上北小学校、東北小学校の通学区に住む児童も甲地小学校に就学でき

るということになります。つまり町内全域からの就学が可能になり、結果として児童数の増加が見込まれるという制度です。

質問要旨３の地域の理解や協力が求められるが、何か対策はお考えかについてでありますが、小規模特認校が価値あるものとして機能するためには、学校と地域をつなぐ役目を担う組織、学校地域連携協議会、あくまで仮称ですが、このような組織がぜひとも必要になります。メンバーには、学校関係者、町内会代表、子供会代表、町内各施設代表等が考えられますが、地域はどういう仕組みによって学校を支えていくのか、反対に地域のために学校ができる取組は何か等話し合い、実行に移していくことになります。例えば学校行事としての運動会も、地域を巻き込んでの運動会となるよう、地域の種目も組み入れたり、地域の方々を積極的に招待したり、工夫できるかもしれません。

また、昨年９月に甲地小学校で実施されましたＰＴＡ主催のむかごっこ祭りも、主催を学校地域連携協議会と協働で行うなど、この時期の地域挙げてのイベントとなるよう、町内会、商店会など、地域の様々な組織を巻き込むと同時に、子供たちによる販売、飲食店のブースを設けるなど、さらなる地域活性化につながる工夫ができる可能性を大いに秘めていると思います。

加えて、これも仮称ですが、この組織の有効性を高めるためには、学校地域連携コーディネーター、このような方を指名して、連絡調整、指導助言等に当たっていただければ、より効果的であると思われます。

これから甲地小学校で始めようとしている学校と地域が互いに連携して学校づくり、地域づくりを行う仕組みは、実はコミュニティ・スクールという名称で文科省も全国的に進めてきており、さきに説明いたしました学校地域連携協議会は学校運営協議会とも呼ばれ、地域と学校をつなぐ同様の役目を担っております。

このコミュニティ・スクールを導入していない市町村は、上北９市町村の中で、六ヶ所村、七戸町、そして東北町だけとなっていますので、教育委員会として喫緊の課題の一つでもありました。上北中学校区、東北中学校区においても、８年度以降推進していければと思っております。

いずれにいたしましても、教育委員会では令和８年度からの小規模特認校への移行を目指しているところであり、次年度、令和７年度はそこに向けての準

備期間となりますので、ご理解いただきますようよろしくお願いいたします。

以上答弁とさせていただきます。

○議長（岡山粕男君）　大崎昭子議員。

○３番（大崎昭子君）　ご答弁ありがとうございました。令和７年度、いよいよ複式学級がスタートするということですが、複式学級の経験のない保護者の方々は、非常に心配しているのかなというふうに思っております。

２年生と３年生が１つの教室で一緒に学習するということになるようですけれども、担任の先生のほかに教育経験のある支援員さんを配置するということで、その支援員さんというのは具体的にどのような支援をするのか教えていただけますか。

○議長（岡山粕男君）　教育長。

○教育長（長尾誠治君）　お答えいたします。

本来でありますと、１人の先生が一方の学年を指導している際には、もう一方の学年はといいますと、先生がつかず、自学自習という形態を一般的には取ることになりますが、来年度お願いしております支援員の方は、元教員でありますし、また複式学級も経験されております。担任の先生の教科指導を補佐するとともに、担任がついていない場面での自学自習の仕方等についてもきめ細かくご指導いただけるものと思っております。

以上でございます。

○議長（岡山粕男君）　大崎昭子議員。

○３番（大崎昭子君）　私も実は複式学級の出です。小学校３年生から６年生までの計４年間を複式学級で学習しました。その当時は、担任の先生が１人で２クラス分を教えていくような形を取っていまして、その中でも人数が少ない特権だとは思うのですが、学習が遅れるというようなことはございませんでした。

今回甲地小学校の複式学級というのは、その支援員さんがついて、担任の先生のほかに、自学自習のほうを面倒見てくれるということですので、学習の遅れも当然ないでしょうし、理解できていないのだろうなという生徒には、きっときめ細やかに目が届くのではないのかなと思いますので、複式学級に対するサポートというのは万全であるのではないかなというふうに認識しております。

甲地小学校のような人数の少ない学校で、県立三本木中学校を受験して合格

する生徒が複数出てきているというのは、人数少ないながらも、学習力、学力が高いというのが認められているのではないのかなというふうに感じますので、ぜひともこの複式指導について万全に進めていただければなというふうに思っております。１点目は、これで終わります。

次、２点目ですが、小規模特認校についてです。特認校とは、通常の学区以外からでも就学することができる学校になるということの認識でよかったですね。甲地小学校が小規模特認校になった場合、町内全域から特別な申請をすることなく就学できる学校になるのですが、それによって生徒の増加も見込めるということですが、実際のところ複式学級とか少人数というのを敬遠して、ほかの学校に行くことを選択する保護者の方がいらっしゃるようです。

そこで、甲地小学校がこの先生徒の数が減っていっても、東北小学校に統合するということを選ばずに、小規模特認校を目指す理由というのは何なのかを教えていただけますか。

○議長（岡山粕男君）　教育長。

○教育長（長尾誠治君）　お答えします。

私ごとで恐縮ですけれども、私は38年間学校に勤めておりました。その間に幾つもの小規模校の学校が閉校となり、統合されていくのをこの目で見てまいりました。その中には、確かに小さな学校ではあるけれども、地域に愛され、地域のかけがえのない存在として地域に根づき、地域とともに生き生きと教育活動を展開している学校もありました。

今小規模特認校を目指そうとしている甲地小学校も、そうした学校の一つであるのではないかと認識しているところです。すばらしい学校だと思います。しかしながら、今後何も手を打たなければ、どんどん児童数は減り、いずれは統合ということも現実味を帯びてきます。では、小さな学校には残すべき価値はないのでしょうか。決してそうではないと思います。小さな学校だからこそできる教育、育つ子供たちがきっといるはずです。教育委員会として、甲地小学校を小規模特認校に移行させたいとの大きな理由はそこにあります。

ただ、ここで強調しておきたいのは、甲地小学校の児童数が単純に増えればいいという考えではないということです。それでは、甲地小学校が小規模特認校を目指すということに関しまして、教育委員会として考えている利点を幾つ

か挙げてみたいと思います。

第１に、特色ある学校づくりの実践が行いやすいこと。第２に、学校と地域が密接につながることによる地域の活性化が期待できること。第３に、他校での大きな集団での学習に戸惑いのある児童の受皿になり得ること。４つ目として、甲地小学校には負けられないという町内全体の学校の活性化も副次的には起こり得る可能性を秘めていること。最後、５点目として、他通学区からの児童の就学による児童数の増加が見込めることなどが考えられます。

よって、甲地小学校は、小規模特認校として残すべき十分な価値のある学校であると教育委員会では認識している次第です。

以上でございます。

○議長（岡山粕男君）　大崎昭子議員。

○３番（大崎昭子君）　私も小さい小学校の出身ですので、そういう小さい学校を残したいという思いは、非常にうれしく思います。県内では、今甲地小学校の特認校を目指す以外に、先に切田中学校、そして弘前の常盤野小中学校が特認校としてあるのですが、そちらの特認校のほうの実績はどういうのがあるのかは、何かご存じでしょうか。

○議長（岡山粕男君）　教育長。

○教育長（長尾誠治君）　お答えいたします。

現在新聞での情報しか持ち合わせていませんけれども、弘前市の常盤野小学校の新聞記事をご紹介いたしたいと思います。

2018年、平成30年に特認校になったことで、８人だった児童生徒数が令和６年度までに25人に増えたという記事がありました。自然豊かな環境で、教員、児童生徒間の距離も非常に近く、伸び伸び学んでいるという内容のものでした。

教育委員会もこの小規模特認校を目指すに当たり、最も新しい情報、またメリット、デメリットも含め、確認したいという思いがございます。７年度早々には、両学校及び教育委員会を訪問して、様々情報交換をしていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（岡山粕男君）　大崎昭子議員。

○３番（大崎昭子君）　８人の生徒が25人になるということは、約３倍に生徒が

増えているということで、きっと子供たちにとってのメリットも大きくあるからの増員なのかなというふうに思うのですが、それでは先ほど特認校によるメリット、デメリットのお話をされましたけれども、そのメリット、デメリットは何があるか教えていただけますか。

○議長（岡山粕男君）　教育長。

○教育長（長尾誠治君）　お答えします。

　メリットにつきましては、先ほどお答えしました小規模特認校を目指すに至った理由のところで５点ほどお答えしましたけれども、それに加えまして特認校であるなしにかかわらず、小規模校のメリットとしては、小規模校ならではのきめ細かな指導がしやすいこと、いじめなどの問題が起こりにくいこと、子供一人一人が活躍できる場面が多くなること、体験学習、校外学習など、機動的に行うことができることなどが挙げられると思います。

　一方、小規模特認校のデメリットについては、県内２校の実践校を視察して意見を伺ってみたり、実際に開校して見えてくる部分もあるかとは思っておりますけれども、特認校というより小規模校であるがゆえのデメリットとしては、集団の中での役割が固定化しやすいこと、切磋琢磨、いわゆる競争意識の希薄化が懸念されること、教諭、補助員等なしには教科担任制など多様な指導形態が取りにくいこと、児童の問題行動にクラス全体が大きく影響を受けることなどが挙げられると思います。

　以上でございます。

○議長（岡山粕男君）　大崎昭子議員。

○３番（大崎昭子君）　ありがとうございます。どんな規模であれ、メリット、デメリットというのは必ず存在するものだと思っております。私も１学年10人程度の小学校から、中学校は１学年500人の学校に、急に人数が増えることになりました。確かに小さい学校で、伸び伸びと勉強もさせてもらってやってきましたが、大きい学校に行ったときに、初めて自分に競争心というものが薄かったということに気がつきました。その辺りは、中学校に上がってから、大人数の中で負けたくないから、これは頑張らなければな、走る練習しなければな、勉強しなければなというのは、中学校の段階で学んだなというのを記憶しております。

甲地小学校のメリット、デメリット、特にこのデメリットの中で甲地小学校、特色ある学校づくりの実践が行いやすい、人数が少ないから、いろいろな環境、いい環境にいるからということだと思うのですが、その甲地小学校の特色ある教育というのは、特色は何か具体的にあるのでしょうか、教えていただきたいと思います。

○議長（岡山粕男君）　教育長。

○教育長（長尾誠治君）　お答えします。

甲地小学校としての最大の特徴、特色というものを考えたときに、それは小川原湖、農用地での豊かな体験活動を可能にする教育的な環境に恵まれていること、閑静な立地、学校施設、設備も比較的新しく充実し、落ち着いた環境であること、学力が比較的高く、ＩＣＴの授業等における活用が進んでいること、地域の方々がとても協力的であること、通学区の遠いところでも通学に要する時間は車で20分程度であり、通学しやすいということなどが挙げられると思います。

これらの特色を踏まえつつも、学校づくりをしていく上で最も大切にしなくてはいけないことは、甲地小学校の子供たちにとって、大きな成長につながる学校でなくてはならないということです。さらには、他通学区の子供たちにとっても魅力を感じられる学校となり、甲地小学校を選んで来てもらえるようにならなくてはならないと思っています。

そのためには、教育委員会でも学校づくりのための明確な方針、理念、コンセプトといったものを掲げる必要があります。ただ、現時点でははっきりと決まっている部分はありませんので、新年度早い段階において、学校、教育委員会、学識経験者との協議によって進められるべきものと思っております。

以上でございます。

○議長（岡山粕男君）　大崎昭子議員。

○３番（大崎昭子君）　特色のある教育として、甲地小学校の環境、小川原湖があって、農地があって、閑静な立地であったり、先ほども言いましたが、学力がとても高いとか、地域の方々が協力的であるとかありましたけれども、例えば甲地小学校で特色のある教育を進めるに当たって、甲地小学校でしか学べない、体験できない、子供たちにとって魅力的な学校である必要があるのではな

いかなというふうに思います。例えばですけれども、ＩＣＴの活用が進んでいるのであれば、ｅスポーツを取り入れて子供たちから地域の方々や高齢者に向けてのそういう交流を深めるようなことを取り組むとか、例えば我が町は農業の町です。スマート農業の即戦力となれるように、小学校のうちからドローン操作とかをやらせてみるとか、これも例えばですけれども、東北町テレビに甲地小学校のコーナーをつくって、青森県人が最も苦手とする、発信力の低さがとても青森県人は弱いとされているのですが、子供の頃からそういった広報であったり、そういう宣伝等を発信できる基礎力を小学校のうちからつけていくとか、そういった甲地小学校ならではのそういうのをぜひとも進めていただければなと、子供たちにとってプラスになるような、そして地域にとってもプラスになるような学校に進めていただければなというふうに思っております。

先ほどの中に甲地小学校は通学区の遠いところでも20分程度ということなのですが、もしほかの学区から甲地小学校に通う、通いたいとなった場合、例えばスクールバスとか、そういう通学に関して何か対策、送迎等は考えていますでしょうか。

○議長（岡山粕男君）　教育長。

○教育長（長尾誠治君）　お答えします。

現段階では、確定的なお話はできませんけれども、仮に通学者が複数あった場合には、役場、駅等に参集いただいて、送迎するという方法もあろうかと考えております。いずれにいたしましても、現段階で確約できるものはございませんので、今後十分な検討が必要になろうかと思っておりますので、ご了承いただきたいと思います。

○議長（岡山粕男君）　大崎昭子議員。

○３番（大崎昭子君）　甲地小学校に通うに当たって、ほかの学区の方々はその交通手段、通学手段というのはとても大きな課題になるのではないかなというふうに考えています。せっかく甲地に行きたいなと思っていても、そういう手段がなければ、ではやめようかということで敬遠されることにもなってしまいますし、小規模特認校として全域から受け入れるということを目指すのであれば、ぜひとも交通手段、通学手段について前向きに検討していただける、そういうのを早く打ち出せるように検討することをお願いしまして、２点目につい

ては終わりたいと思います。

続いて、３点目の地域の理解や協力についてです。仮称ということでありますが、学校地域連携コーディネーターであったり、学校関係者、町内の方々、子供会等々の協議を開催して意見をいただいて、実行に移していきたいと、小規模特認校に向けての実行に移していきたいということですけれども、実際のところ２回ほど保護者のほうで説明会をされているようですけれども、保護者の方々には複式学級であったり、小規模特認校の件に関しては伝わっていると思うのですが、それ以外の方々、例えば甲地の地域の方々であったり、甲地学区以外の保護者の方であったり、その辺りには甲地の小規模特認校としての取組についてはまだまだ周知がされていないのではないかなというふうに見受けられます。これから入学を迎える児童を持つ保護者の方々には、丁寧な説明や協議が求められると思います。

２点目でも触れましたけれども、特色のある教育、どのような学校を目指していくのかというふうなこと等々、早急に全てを打ち出して、令和８年度からの小規模特認校としての開校ということであれば、今年の秋ぐらいまでには全てを打ち出す必要があると思うのです。それをぜひとも早い段階で、スピード感を持ってお話合い、協議会を進めていただいて、お披露目できるのを期待したいなというふうに思っております。

我が町の将来を担う子供たちに伸び伸びと成長してもらって、この町を大好きになってもらう大事な６年間を過ごすことになります。その６年間を私たち大人が全力でサポートしていく必要があると思います。地域との協議や理解を深めることを、ぜひともスピード感を持って進めていくことを要望しまして、３点目は終わりますが、最後に町長にお伺いしたいと思います。

甲地小学校の小規模特認校としての取組というのは、地域と学校をつなげ、活性化につなげる、まさにさらなる挑戦、新たな挑戦ではないかなというふうに私は思っております。小学校単独の特認校となれば、県内では初めての小学校単独の特認校になっていきますが、甲地小学校の小規模特認校について、町長のほうで何かありましたら聞かせていただきたいと思います。お願いします。

○議長（岡山粕男君）　本来大崎議員は、答弁者教育長というふうに申告していますけれども、非常に重大なことですから、町長、答弁できますか。短めにお

願いします。

町長。

○町長（長久保耕治君）　大崎議員にお答えをいたします。

私も住民力が活きる協働のまちづくりということで、まさに今大崎委員がご指摘されたこと、また教育長が答弁したことは、住民力が生きる協働の学校づくりということになるのかと思います。そういった中では、地域の方々とのコミュニケーションないし説明、これはしっかりこれからやっていかなくてはいけないですし、しっかりした理解、相互理解が必要になるかと思います。

今ずっと話を聞いていたときに、私が小学校のときは、上北地区は多分第一小学校、上北小学校、小川原小学校、３校、東北地区は美須々、水喰、夫雑原、寒水、千曳、淋代、滝沢平、清水目、舟ケ沢、甲地、蛯沢、11校も小学校がありました。恐らくその中では、そういった複式の学級もあったと思いますが、私そういったあまり大きくない学校、むしろ親子が一体となって物すごく連帯感で、いろいろなスキー大会であったり、マラソン大会に臨んできたのがすごく記憶にありますし、また今でも地域に出向くと、そういった分館地区は物すごくコミュニティーが盛んです。そういったものというのは、もしかしたら学校のそういった取組から派生しているとするならば、やはり学校というものを大きい、小さいということでくくらずに、様々な特性を生かしていくことは大事だと思っています。

大崎議員をはじめ議員の皆様からの様々な英知をお願いして、私の答弁とさせていただきます。

○３番（大崎昭子君）　期待しております。以上で終わりたいと思います。ありがとうございました。

○議長（岡山粕男君）　これで３番、大崎昭子議員の一般質問を終わります。